

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400038		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム玉野		
所在地	玉野市田井1丁目6-19		
自己評価作成日	平成25年11月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kani=true&JivovsvoCd=3390400038-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成25年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニット間の交流が行いやすい造りになっている為、開放感があり、ユニット間の交流が日常的に自然な形で行うことができている。地域の幼稚園から高等学校まで、幅広い世代との交流を定期的に続けており、また地域住民の方に秋祭りや消防訓練にご参加頂いたり、地域主催の研修会に参加するなど地域との関わりを大切にしています。ボランティアについては、傾聴ボランティア、日本舞踊、大正琴、オカリナ演奏など様々な分野から受け入れをしています。また、介護に対する理解を深めるため、そして職員の勉強意欲の受け皿として、事業所内研修の充実や外部研修へ積極的に参加しています。ご入居者のその時々々の気持ちや思いを傾聴しながら、入居者本位の支援に取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全国に多数の事業所を抱える法人の一事業所であるため、研修や事例発表会、職員満足度アンケートといったケアの向上を目指す取り組みが、法人グループ内で積極的に行われている。法人理念を浸透させ、事業所内でも今月の目標を定めて、より質の高いサービスが提供できるよう努めている。地域とのつながりを大切にし、様々な世代の人々と活発に交流している。特に若い世代に高齢者や介護を知ってもらうのは事業所の使命と考え、地域の幼稚園、小学校の定期的な訪問や、中学生、高学生の職場体験を積極的に受け入れている。これは利用者にとっても良い刺激となり、子どもたちと接している時、利用者は笑顔になっている。また、運営推進会議で民生委員から出た意見により、事業所周辺の美化活動を地域の人と共に行うようになった。避難訓練では近隣住民に参加してもらった。利用者、家族、職員の声を受けて、事業所内の改善も迅速に行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者と家族に、より質の高い介護サービスを提供する為に、運営理念、クレドの唱和を朝礼時に行っています。常に理念、クレドの考え方を意識した介護が取り組めるようにしています。	法人共通の理念をクレドにして、全職員が携帯し、毎朝唱和している。理念を元に「感謝の気持ちを持って気持ち良く働く」等の月間目標を会議で決めている。職員が身につけるべき「知・聴・考」の3つの力が高まるよう、各種の取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田井地区、自治会、近隣とのつながりを大切にしています。地域の小学校・幼稚園には、定期的にホームに訪問頂き、交流を行っています。また、地域の愛育委員としての活動も行っており、地域との関わりを大切にしています。	若い世代に高齢者や介護を知ってもらうのは事業所の使命と考え、幼児、児童の訪問、中学生、高校生の職場体験を受け入れている。各種のボランティアも迎え、幅広い世代と交流している。事業所周辺の美化活動を地域の人と共に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護に対する理解を深めて頂いたり、興味をお持ち頂けるように、地域の中学校のチャレンジワークの受け入れ・高校の体験学習の受け入れをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見サービスを向上に活かしている	地域の民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員、ご家族にご参加頂き、サービスの提供状況についての報告や相談を行っています。また、議事録をご家族に送付するとともに、ホーム内で閲覧できるようにしています。	傾聴ボランティアをしている運営推進会議の参加者の意見により、事業所でも月2回実施するようになり、利用者から喜ばれている。事業所周辺の草刈りも会議参加者と職員とで行えた。家族会をもっと周知したら等の意見があり、今後の課題である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは頻りに連絡をとり、介護保険に関わる情報の提供を頂いたり、入居時の受け入れ相談等を行っています。また、市の相談員の方が2ヶ月に1度訪問に来て下さりご入居者やご家族とお話をさせていただきます。	介護相談員、介護施設関係者、市の職員による三者懇談会に参加し、意見交換すると共に、利用者や職員、家族等の声を共有でき、運営に活かしている。地域包括支援センターからは体操のDVDを借りるなど、良い関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内でマニュアルを作り、事業所内の研修にて身体拘束の研修を行い、身体拘束をしないケアを実践しています。	身体拘束は見受けられない。管理者は、してはいけない理由と代替方法による防止を考え、意識するよう、日頃から職員に促している。「ちょっと待って」等の言葉による拘束も職員は気を付け、利用者の行動を遮るような言動はないが、「してください」という命令形は多少多い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内でマニュアルを作り、事業所内の研修にて高齢者虐待防止法の研修を行い、事業所内で虐待が起こらないように、また見過ごされないように徹底して注意を払っています。各ユニットに虐待防止マニュアルを設置しており、いつでも閲覧できるようにします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、対象者がいないので行っていませんが、今後の勉強の為、研修の機会を設けるように致します。玄関口には成年後見人制度のパンフレットを設置しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や契約改定時には、ご家族様と重要事項説明書の読みあわせを行い、都度ご不明な点があればご説明をさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社内の相談窓口、事業所内の相談窓口を設けており、意見箱の設置もしています。また、社内でご家族様アンケートを毎年実施しており、頂いたご意見やご要望に対する対策を職員で話し合いを行い、改善に向けた取組みを行っています。	家族からは来訪時や電話で意見を聞いている。また、法人本部による家族アンケートが毎年実施され、結果を玄関に掲示している。例えば「もう少し掃除を」という声に対し、職員会議で取り組み方法を決め、それに沿って実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、職員満足度アンケートを実施しています。毎月1回の全体会議やユニット会議でスタッフ同士の意見交換や提案を聞く機会を設け、反映させています。	管理者は「いろんな意見があっただ」と職員に伝え、実際に職員から出てきた、作業効率化の提案や壊れた備品を取り換えたいという意見に対し、すぐに対処している。毎年、法人本部が実施する職員アンケートは結果が全職員に示される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務の中で、職員個々の努力や実績、勤務状況の把握を行い、また定期的に個人面談を行い、各自が向上心を持って働いて頂けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加を促し、参加終了後には、全体会議等で他のスタッフへの情報の共有を行っています。また、定期的の中四国の「愛の家」の事業所が集まり、合同研修会を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉野市のグループホーム協議会が半年に1回開催されるので、毎回出席させて頂き、他のグループホームとの情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに行かせて頂き、ご本人と面談をさせていただき ご本人様が困っていることや不安なことなど傾聴する事で、安心して過ごして頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談を行い、困っていること、不安なこと、要望等をお伺いしながら関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族が必要としている支援を見極め、ご本人様にとってより良いものを提供できるようにしています。また、サービスの変更があった時などは、都度相談し、変更しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長い人生経験の中で培われた知恵や教訓、料理や手芸を教えて下さったり、買い物では食材の選別の仕方をご教授頂くなど、暮らしを共にする関係を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事のご案内をさせて頂き、ご家族と入居者が一緒にお過ごし頂けるよう努めています。また、運営推進会議や研修会にご家族に参加して頂き、共に介護について考えながら、ご本人を支える関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者に関わりのある方の面会については、ご家族の承諾を得て、馴染みの人との関わりが継続して行えるように支援しています。	毎月家族に送る手紙を4月から刷新し、写真を入れ、もっと詳しく様子を書き、事業所での生活をよりわかりやすく伝えることで、家族との心理的な距離を縮めようと工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が良好な関係が築けるように、共同で洗濯物たたみの手伝いを行って頂いたり、各種アクティビティーの中での関わりの中で、お互いが支え合う関係が作れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後のご様子をご家族に確認させて頂いています。ご家族の承諾を得て、転居先の病院や施設へのご面会やお見舞いに伺わせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族のお話の中から、ご意向をお聞きしています。コミュニケーションの難しい入居者の把握についてはご家族の希望や意向や生活歴から本人本位の支援が行えるように努めています。	利用者に喜んでもらえることは何かを職員が考え、映画、美容、おやつ、アニマルセラピー、トイレ装飾等を実施する職員担当者を決め、11月から実施している。それぞれに対する利用者の反応を確かめている最中である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや面会時に、本人と家族から生活歴や生活習慣等の情報収集を行っています。入居前に介護サービス等を利用されていた場合は、担当者から情報提供書を頂き、これまでのサービス利用の経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務に入る前の申し送りやカンファレンス等で、日々の状態の把握に努めています。そして、利用者様の少しの変化も見逃すことのないよう、スタッフ同士の情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向や要望を伺い、職員で話し合いを行ったうえで、介護計画を作成しています。	新たに「サービス計画実施状況のモニタリング」をはじめ、介護計画の実施可否を毎日つけるようになった。利用者ごとに担当職員を決め、週ベースでの実施状況に対し、効果と本人の反応を調べ、これらをもとにカンファレンスができるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者様の行動や言動、また、利用者様の状態は個別の介護記録に記入しています。バイタル・排泄などは、一覧の表にしスタッフ全員が一目でわかるようにし、情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調不良時の受診の付き添いや、外出希望時の同行等、入居者やご家族のその時々状況に応じて支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの訪問や、2～3ヶ月に1回の各種ボランティアの慰問など積極的に受け入れさせて頂き、地域との関わりの中で安全で豊かな暮らしを楽しむことができます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族の希望を伺い、協力機関の往診、あるいは入居前のかかりつけ医への受診をして頂いています。また、希望者には訪問歯科による口腔ケアのサービスも行っています。	看取りも行う医師に協力医を切り替えた。いつでも対応してもらえるのが安心と、ほとんどの利用者がその協力医をかかりつけ医とした。かかりつけ医とは密に連携を図りながら利用者の支援にあたっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内には、看護師はおりませんが、往診医の訪問看護の看護師の方が来て下さり、全入居者の体調管理をして下さいます。往診医と訪問看護の看護師が同じ病院ですので、円滑な連携が図れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供を行い、入院中には担当看護師や相談員に様子を伺うなど、連携を図っています。退院時は、看護サマリーを作成していただき、円滑な受け入れができるように医療機関との連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の意向を伺いながら、事業所で終末期ケアをご希望される場合は、医療機関、事業所、そしてご本人とご家族の間で十分な話し合いを行いながら、ご対応させて頂いています。	ここでの看取りの良さと不十分さを家族らに伝えている。今年は2例の看取りがあり、昨年の初めての看取りの経験が活かされた。1名は本人が認知症になる前に、終末期は痛みを取る治療をしてほしいと意思表示していたが、協力医との連携により、その希望に沿うことができた。また家族の泊まり込みにも対応し、家族が最期に立ち会えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内にマニュアルがあり、そのマニュアルに沿って対応しています。また、緊急時に落ち着いてかつ適切な対応が行えるように、消防署主催の普通救命講習Ⅰの受講を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定したものを含め年2回開催しています。4月開催した消防訓練では、玉野市消防署立会のもと、地域住民の方のご協力を頂き、避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施しています。	避難訓練では初めて近隣住民にも参加してもらったが、住民協力の難しさがわかった。消火器の位置や緊急警報装置の使い方など、職員の熟知には至っていない。3日間の食糧備蓄や、家具類の転倒防止など、火災以外の対策も講じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議や研修で、入居者に対する言葉遣いや対応について考える機会をもち、尊敬の気持ちを込めた言葉遣い・対応を心掛けて行っています。また、記録物の保管については入居者の目の届かない場所で保管するなどプライバシーに配慮しています。	管理者やリーダーが、率先してきれいな言葉遣いを実践し、職員の言葉がきつと思った時は直接声をかけたり、考える機会を作ったりしている。職員による対応のばらつきがあり、きつい口調や命令形の語尾、トイレ誘導での大きな声があった。	職員の言葉遣い一つで事業所の印象が変わる。言葉をかけるタイミング、口調、言い方など、利用者が不快に感じないために、どのような対応が良いかを考える機会を充実させ、日頃のケアに活かせるよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせ、また、ご本人のわかる力に合わせてご自身で決めることができるように支援しています。耳が遠くコミュニケーションが難しい場合には、筆談でのコミュニケーションも取り入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の1日の過ごし方を優先に考え支援しています。その時々のお気持ちやご体調に合わせて柔軟に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴後では、入居者のわかる力に合わせて衣服の選択肢の提供を行い、ご本人にお選び頂いて更衣して頂いています。また、整髪や髭剃りはできる力に合わせて支援を行い、外出時には、お化粧などの支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の個々のできる力に合わせて、食卓のテーブル拭きや下膳、食器洗い、お盆拭き等のお手伝いをして頂いています。玄関前のテラスでお茶を召し上げて頂いたり、外食の機会を設けたりと楽しんで頂ける工夫をしています。	朝食は7～9時で好きな時間に取れ、片方のユニットではご飯かパンかを選べる。食材の質、彩り、バランスの良い食事が、調理専任者により、各人の好き嫌いや嚥下状態に合わせて提供される。職員も一緒にテーブルを囲み、食後もゆったりと利用者と一緒に談笑する。下膳を手伝う利用者もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア日報や水分摂取表を用いて、一日の食事量・水分量を把握し、個々の必要量が確保されるように努めています。また、体調に合わせて食事形態・内容を変更したり、補食でおぎなう等の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所に誘導し、口腔ケアを行って頂けるよう支援しています。また、食前に嚥下体操を取り入れたり、口腔内のトラブルが生じた場合には、週1回の訪問歯科診療で定期的な口腔ケアをうけて頂いている方もおられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターン、習慣の把握に努め、できる限りトイレで排泄ができるように支援しています。	失禁があっても、本人の自尊心を傷つけないよう配慮しながら対応している。夜間の排泄は一人ひとりに合わせ、トイレ誘導やオムツ対応の時間を調整している。多少、トイレの汚れがあった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を定期的に飲食頂いたり、食前に健口体操と称して適度な運動を行い、自然な形で排便ができるように支援しています。排便チェック表を活用し便秘が続いた場合は、主治医の指示のもと整腸剤や下剤にてコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴支援を行っております。ご体調やご要望に合わせて清拭や足浴の対応をさせていただきます。	入浴は週3回を基本とし、曜日は固定だが、できる限り利用者の希望に添えるよう配慮している。長湯が好きな人には、身体に負担の少ない程度でゆっくりと浸かってもらう。身体の洗い順などを、今までの本人のやり方に合わせ、違和感なく寛いでもらえるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムやその日の体調に合わせた支援を心掛けています。夜間、眠れない方への安眠方法として、暖かい飲み物の提供を行い、一緒に過ごしお話を傾聴するようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個人ごとの服薬ファイルを作成し、全スタッフが把握できるようにしています。薬の副作用などの情報共有が行えており、特に薬の変更・中止・増減等があれば、普段の様子とお変わりないか注意して様子を観察させて頂いています。内服支援時には、個々の内服を間違える事のない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編物をして頂いたり、掃除の手伝いをして頂いたり、入居者の得意とされるものの情報をご本人やご家族にお聞きし、気持ちよく行って頂けるように支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の行事や食事会・ドライブなどで外出する機会を設けています。また、日常的に玄関前のテラスを散歩されたり、ベンチに座りくつろいでおられます。また、ご家族のご協力を頂いて墓参りに行かれる方もおられます。	坂道の途中にあり、散歩は難しいが、今年から本格的にテラスや庭で始めた園芸を利用者に手伝ってもらったり、ゴミ出しを一緒にして、外気に触れる機会につなげている。約2ヶ月ごとの外での食事会等は近場に住む家族が協力してくれる。	ゴミ捨てや園芸で頻繁に外に出ていることを、もっと家族へアピールできるよう、期待したい。また、利用者の行きたい場所へのさらなる実現や、外出が困難な人への工夫も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、ホーム内金庫でお預かりさせて頂いておりますが、ご本人の希望により、お財布に小額のお金をお持ちの方もおられます。その都度ご家族様に確認させて頂きながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望があれば、電話を利用頂けるように支援しています。ご家族に毎月お手紙をだされるご入居者もおられます。また、ご本人の希望により葉書を代理購入させて頂き、ご家族に葉書をだされる方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共用ホールには、季節感のある装飾を行い、その時々を季節を感じて頂けるように工夫しています。また、わかりやすい目印や移動が行いやすい環境を心掛けています。	トイレに迷わないよう、大きくわかりやすく表示があった。飾り付けの得意な職員が中心となって、利用者と共に季節感のあるちぎり絵などを制作し、飾っている。昨年よりも凝ったものが目立つ。掃除道具を新たに購入し、清潔維持に努めている。しかし、片方ユニットのホールに、不快な臭いが漂っていた。	不快な臭いは、どんな事情があるにせよ、利用者、外来者からの苦情につながりやすい。臭いに対する対策を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用ホールのソファに座りくつろいでおられたり、時には、居眠りをされる入居者様もいらっしゃいます。そして、仲のよい入居者同士でご歓談をされたりと思いいに過ごしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームでは、ベット・タンス・テレビ台は、備え付けですが、入居者の使い慣れたものを持ち込み頂き、できるだけ自宅に近い環境の中で居心地良く暮らして頂けるよう支援を行っています。	利用者一人ひとり居室の様子が異なり、各人にとって過ごしやすいように配慮されている。新たに掃除表を作り、換気扇などを定期的に清掃し、きれいな状態を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのできる力・わかる力を活かして、本人が自分で行って頂けるように環境や条件を整える支援を心掛けます。居室やトイレがわかりやすいように目印を付けたり、個々の力に合わせたベッドの配置の工夫等行っています。		